

令和6年3月31日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立波野小学校	<a href="http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899">http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899</a>	<a href="http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899">http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899</a>

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

#### <特記事項>

#### (1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
77.6 %	14.3 %	6.1 %	2.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
83.7 %	10.2 %	2.0 %	4.1 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
89.8 %	8.2 %	0.0 %	2.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
91.3 %	8.7 %	0.0 %	0.0 %

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
75.4 %	15.4 %	7.7 %	1.5 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
75.4 %	23.1 %	0.0 %	1.5 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
78.5 %	13.8 %	3.1 %	4.6 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
67.7 %	21.5 %	3.1 %	7.7 %

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
81.8 %	18.2 %	0.0 %	0.0 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
90.9 %	9.1 %	0.0 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
72.7 %	27.3 %	0.0 %	0.0 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALT との活動を通して、外国語や外国の文化に慣れ親しむ。</li> <li>・ 外国語に親しみ、外で出会った外国人とコミュニケーションを積極的にとろうとする意欲をもてるようになること。</li> <li>・ 早い段階で、英語の音やリズムに慣れ親しむことで、英語を聞く力が育つ。英語の会話や表現を繰り返すことで自然に使えるようになる。</li> <li>・ 英語嫌いにならないように楽しく英語に慣れ親しむことが大切。</li> <li>・ 英語や外国の文化に、活動を通して楽しみながら慣れ親しむこと。</li> <li>・ 外国語と日本語の違いや、文化の違い等に触れ、諸外国への興味関心を高めることに繋がること。</li> <li>・ 楽しく学べて、苦手意識のないようにしたい。</li> <li>・ 楽しみながら自然と身に付くこと</li> <li>・ コミュニケーション能力の向上や国際理解が深まること等です。</li> <li>・ 今後も、外国語に親しんだり、外国の文化などに触れる機会を続けてほしいです。</li> </ul>			

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
55.4 %	32.3 %	6.2 %	6.2 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
75.4 %	20.0 %	3.1 %	1.5 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
40.0 %	46.2 %	7.7 %	6.2 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語力の獲得、今後の社会に順応できる。</li> <li>・ 外国語に親しんで、普段から気楽に声に出すようになれば、自然と身について良いと思う。</li> <li>・ 将来的に職や趣味、交友関係などに役立つ事を期待しております。</li> <li>・ 発音の良さ、外国人と触れ合う事で異文化を知る事。</li> <li>・ 英語を好きになってほしい。授業時間を増やしてほしい。</li> <li>・ 早期から取り入れることにより外国語が必要な今の時代に子どもがより関心を持ち積極的に外国語に触れ学んでもらえたらと思う。</li> <li>・ 英語に親しみ、楽しく学習すること。</li> <li>・ のちのちの英語の学習に抵抗なく取り組めるようになればと思う。</li> <li>・ 低学年から英語を学べる事で自然と興味をもってくれる</li> <li>・ 1年生から外国語に触れ楽しく学ぶことで学年が上がっても外国語の学習に前向きに取り組めるようになってほしい</li> <li>・ 普段の生活の中で、英語が少しでも身近に感じられるようになること。</li> <li>・ 英語の歌などをたくさん、聞いたり、踊りながらリズムに合わせて発音しながら学べる時間がもう少し増えたらいいなあと思います。</li> <li>・ 子どもが小学校に入ってから、英語に関心を持つことができます。おかげで、英語も好きになりました。これからもよろしくお願いします。</li> <li>・ リスニングや英語での会話が少しでも出来るようになること。</li> <li>・ 低学年から外国語に慣れ親しむことで、恥ずかしいと思う気持ちよりも、楽しいことだと感じられる子が増えてほしい。</li> <li>・ 外国語に興味を持ち関心を高めてもらいたい。</li> <li>・ 色々な国に興味を持ち、将来的に英語を多少話せる程度になっていけるような外国語活動を期待したいです。</li> </ul>

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、外国語に慣れ親しみ、外国の文化や慣習にも興味を持つ児童が多く見られる。第1学年の児童について98%が英語を話せるようになりたいかの問いに「なりたい」「どちらかというとなりたい」と答え、言語活動への意欲が見られる。また、第2学年では92.3%の児童が同じ問いに「なりたい」「どちらかというとなりたい」と答えている。

低学年のうちから英語の歌やリズムを十分に楽しむことで自然に英語の音や発音が身に付き、英語を話すことにも抵抗なく積極的に取り組んでいる。また多様な文化や慣習を学ぶことで英語を話せることが、将来役に立つことだという認識を持つ児童が増えている。

一方、1年生・2年生ともに、数パーセントの児童が外国語の学習に対して消極的な回答をしているため、苦手意識を持たせないような授業の工夫や改善が必要である。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

6年生が受検したGTEC juniorでは、昨年度に比べて「話す力」のジュニアグレード3以上を占める割合が78.4%から84.9%へ上昇した。また「書く力」においては、グレード4を占める割合が33.3%から49.1%に向上した。

また、6年生が受検した英検ESGでは、前回平均スコアより34ポイント向上しており、リスニング・リーディングの技能別に見ても前回よりもそれぞれ、20ポイント近く向上している。

以上のことから、本校においては、第1学年から外国語活動を実施することにより、着実に力が付いていると考えられる。

一方で、「1文やまとまった英語を読んで内容を理解する力」において課題が多く、聞く・話す・読む・書くことへの繋がりを意識した指導の工夫・改善が必要である。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

本校では、第1学年から外国語活動に取り組むことで、外国語や外国の文化に慣れ親しみ、「英語を話せるようになりたい」と考えている児童が多く、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。

高学年においても、外国人とオンラインで会話をする機会を設けており、既習の表現を使って積極的にコミュニケーションを図る児童が多く見られる。

しかし、即興的な会話や会話の継続を苦手とする児童もあり、「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」の設定を明確にし、相手意識をもたせた言語活動を行う必要がある。その手立てとしてまず、児童が興味を持ち身近に感じられるようなトピックを用いたり、ロールプレイを設定したりすることで、児童が楽しみながら必要な表現を活用できるようにしていきたい。さらに、段階的に音声から文字へ繋げる指導を行い、児童へ苦手意識をもたせないように丁寧に指導していく。